

世帯の男子73.5%、女子77.5%であり、最も低いのはその他の世帯で男子72.7%、女子77.8%となっている。

なお、欠損歯は男女ともその他の世帯が35.9%、45.6%と最も発現率が高く、次いで消費者世帯、生産者世帯の順になっている。

### 7. 血 圧

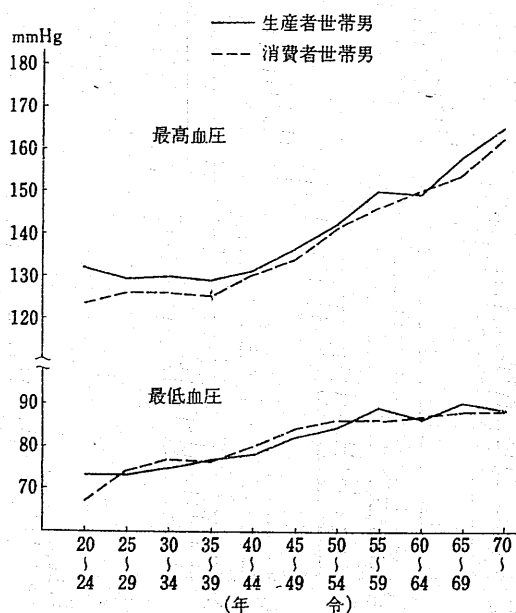
近年わが国の平均寿命は著しく伸長しているところであるが、脳卒中による死亡が死因の第1位を占めており食物と高血圧との関係が重要視されるようになってきたので、昭和31年より20才以上の男女について身体状況調査と合せ、血圧の調査を行なっているが、年次成績をみると余り大きい年次変化はみられない。

#### 1) 性別年齢階級別平均値

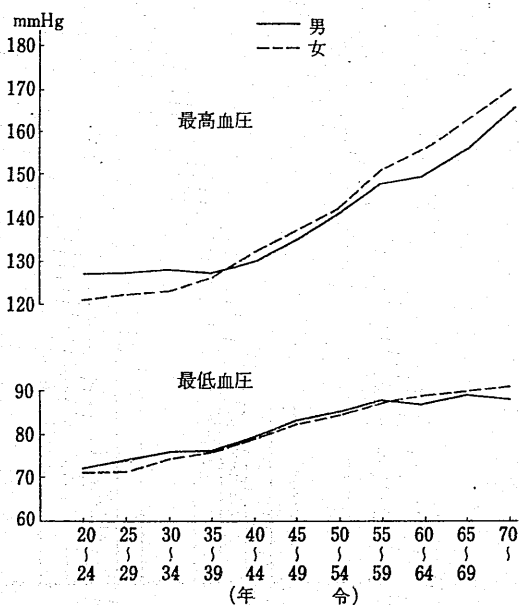
昭和36年度調査による血圧の平均値について、性別、年齢階級別にみると第21図のとおり最高血圧、最低血圧は年齢とともに増加している。最高血圧についてみると女子では35才未満では男子より低い平均値を示すが、35才をすぎるとほぼ直線的に男子を上回る上昇を始め55~59才では高血圧とされる150mmHgをこえて60~64才では156mmHg、65~69才では163mmHg、70才以上になると170mmHgに達するようになる。男子は35才までは大きい変化はなく平均して128mmHgで女子を若干上回るが35才をこえると女子を僅かに下回る直線的な上昇を始め55~59才では148mmHgを記録するが60~64才では上昇率は鈍化して150mmHg、65~69才で156mmHg、70才以上では165mmHgになる。

最低血圧も年齢の増加とともに上昇するが最低血圧の上昇直線は最高血圧より緩慢であり、性別に比較すると最高血圧と同じような傾向がみられ女子は55~59才で87mmHgを示し以後も僅かながら上昇を続けて70才以上では91mmHgに達する。男子では55~59才で88mmHgで女子を僅かに上回るがそれ以後は大きい上昇は示さない。

第18図 性別血圧平均値の比較  
(36年5月)



第19図 業態別血圧平均値の比較  
(全国5月)



## 2) 業態別性別血圧平均値

次に血圧の平均値を業態別、性別に比較してみると最高血圧については35~39才までは生産者世帯の女子が最も高く、さらにこの世帯の女子は60~64才で159mmHg、65~69才で164mmHg、70才以上では171mmHgに達する。

一方、生産者世帯の男子と消費者世帯の女子は40才をこえて55~59才までは、ほぼ同じ上昇をたどるが60~64才になると生産者世帯の男子は上昇率が鈍化し消費者世帯は年令の増加とともに依然として直線的に上昇をつづけて65~69才で161mmHg、70才以上で169mmHgに達する。

最低血圧については業態別、性別に特に大きな相違はみられない。

## 8. 食 材 料 費

国民栄養調査でいう食材料費とは、摂取した全食品量について購入、自家生産、貰い物等の別を問わずすべて市場価格に換算して1人1日当りの平均を示したものである。

1) 昭和36年度調査による全国1人1日当りの食費は125,60円（うち動物性食品の入手に要した費用は36,01円）で前年の112,22円を11.9%大きく上回っている。

これは前年の上昇率6.2%を更に大きく上回る増加であってそのうち、動物性食品の費用は前年に比べ16.3%の伸びがみられる。

特に最近国民所得の増加に伴って国民の消費生活の経費もかさんでいるが、そのうち食材料費の増加の伸びは他の消費財の支出増加に比べて著しく劣っている。従って物価が値上りするとそれについていけない不安定な状態にあることは第24図に示すとおりである。

すなわち、食材料費についてこの数年の動向をみると、昭和32年度に比べて1人1日当りの食材料費は

第 20 図 1人1日当り食材料費年次推移

